

日韓の鉄道労働者が安全について議論

## 第9回 日韓労組リーダー討論会



日本と韓国の鉄道労働者が時々の課題について討論する日韓労組リーダー討論会が9月3日、宮城県松島で開催され、日韓の鉄道、地下鉄の労組等12組織の代表21名が参加しました。

9回目の討論会となった今年のテーマは「安全と労働組合の対応」。鉄道の安全を守るための日韓での闘いの現状、成果、課題を出し合い、議論しました。

日本からは「責任追及から原因究明」という安全哲学をもとに、JR北海道労組、JR東労組、JR西労での闘いを報告、韓国からはストレス等による運転士の相次ぐ自殺、職場への競争原理導入により、安全より運行が優先され、事故が多発していること等が報告されました。

さらにJR東労組仙台地本皆本書記長が、東日本大震災の被災、復興の取り組み、職場の状況について報告しました。議論の中で韓国からは、JR総連の「責任追及から原因究明へ」という安全哲学に学び、闘いをつくり出していることが報告され、両国の安全に対する認識が一致してきていることを確認することができました。

討論のまとめでJR東労組吉川書記長は、日韓の経営側の事故への対応が類似していることに注目、処分や教育のあり方を検証していくことを提案、今年12月に開催される国際労働者交流センター(ICLS)ニュージーランドフォーラムでの議論を両国がリードしていくことを確認しました。

JR総連は今後も韓国の鉄道労働者との議論を継続し、日韓労働運動の発展を目指します。